(七日夕刊)
磐城新聞
休刊 大祭第一第三日曜
定價(壹ヶ月五十錢、郵税十錢) 壹枚二錢
廣告料(一行弐拾錢指定廿錢増)
發行兼編輯印刷人 蓮沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

知事代理を迎え 磐中の卒業式
けふ高月臺の講堂で 知事の告辭全文

磐城中學校第廿九回卒業證書授與式は七日午前十時より同校講堂に於て擧行唐士校長の擧式の辭に次ぎ證書を授與し加瀬知事代理新井學務課長の告辭、諸橋同窓會長の祝辭、在學生總代送辭卒業生總代白鳥謙一君の答辭ありて式を閉じたが知事の告辭左の如し

茲に本校卒業生證書授與の式に臨み素懷を抒へて卒業生の前途を祝福するは本官の洵に欣幸とする所なり諸子本校に入りてより克く修學の功を積み身體を鍛錬し知德を涵養し國家の中堅として活動するの素地を得たりと雖其の由て來る所を思へば諸方に慈愛深き父母あり寛發宜しき恩師ありまた薫陶教誨以て今日あるを致せしなり殊に生後二十年の久しきに亘る兩親勞苦に想到すれば焉んぞ滿腔の喜悦を湛へて諸子の前途を祝福せさるを得んや諸氏は又更に聖朝制を立て學を設け諸子をして安んじて教を受くるを得しめられたる鴻恩に深く思を致さざるへからす願ふに我か國の礎を堅うして茲に三千年國性の美は尊厳なる國体をなし今や文化燦として國威愈々揚かる此隆運を翼襄し益々國勢を進展せしめむことは是我か國民の使命にして之か達成は諸子の將來に俟つへきもの極めて大なるものあり諸子須らく氣宇恢亂にして其の重き任に任すへし曾子曰く「士は弘毅ならさるへからす任重くして道遠し」と輕佻詭激は諸子の最も戒むへき所進むて高等の學府に入ると直に社會の實務に活動するとを問はす質實剛健日彊息ます以て他日の大成を期し國家の中堅たるの任を完らせむことを望むて止まさるなり一言以て告辭となす

從四位勳三等 福島縣知事 加瀬清雄

醉つて毆る
植田の材木屋が

植田町材木商祢川信夫は一日夜十一時ごろ福島市本町ニコ〳〵食堂佐藤惣治(三〇)方で飲食中客は暴言を吐いたので惣治が憤慨し信夫の顔面その他に全治二週間の傷を負はせた福島署で目下關係者取調べ中

そろ〳〵書入時に 平地方の勞働者
仕事あふれもなしに 各種の賃金調べ

石城郡地方に於ける各種工賃を見るに職工中北較的割のよいのは石工で一日金三圓五十錢から又左官三圓大工二圓五十錢などで雜役人夫二圓位となつてゐるが斯うした賃銀は唯表看板過ぎす各工場共に頗る閑散で各職工ともすれば雨も降らぬに休まねば成らぬといふ有樣となる處から自然各自が其賃銀を艱落してゐるので何れも標準賃銀表の六掛位の處で甘んじてゐる、中にも氣の毒なのは親方の手で方々に働き出された雜役人夫は一圓から一圓五十錢位の賃銀から二割からのハネを取られるので手に殘る處は僅に僅かなもので然も雨でも降られやうものならそれこそあごが干上つて仕舞ふ有樣であるが、仕事のあぶれ易い秋から冬にかけての所謂冬眠季節も過ぎてこれから勞働者の書き入れ時の春に向つて行くのであるから如何に不景氣で食ふや食はずで、ゐたとはいへこれからポツ〳〵甘い汁にありつけるやうになるだらう

平町武德會
九日平署で協議會

大日本武德會平分會では九日午後一時より平署樓上に於て分區長、師範、助教の協議會を開き武德奬勵規定一部の改正、弓道優勝旗設置の件、優勝旗調製費達成の件、分區長に町村長、青年團長たる小學校長に囑托の件を協議すると

基本金造成の爲め菊田座で六、七兩日午後六時から活動寫眞會を開催中であるが六日の夜は入場者七百名に達し盛會であつた

平職業紹介
松坂屋の店員採用

平町職業紹介所に於ける東京松坂屋店員採用檢査は來る十二日午前九時より店員中野信義氏出張し檢査をなす筈であるが希望者は履歴書、證明書を差出されたいと因に東京三越呉服店員採用者は次の二名である

(原ノ町)佐野清(鹿島村)箱崎茂雄

植田消防活動

植田町消防組では本縣消防協會

勿來驛貨物況
近來著しく增加

常磐線勿來驛二月中の貨物發着狀態を見ると發送一萬七百九十一噸到着六百七十三噸收入三萬五千六百八十七圓五十四錢で前年後期に比し發送九百四十一噸到着四十噸收入一千八百七十八圓七錢何れも增加を示し一日平均三十噸以上も增加で炭界不況に拘らす需要率著しく增大幾分活況を見せてゐる

明日の吉凶

舊二月 暦七日 新三月 暦八日

▲一白 の人一部の同情はありとも大體は注意すべき▲二黑 の人安全第一の道を撰んだ積りにて苦ある日▲三碧 の人物事進みて利あり引込み思案は後を枯す▲四綠の人注意し居り易しも不圖人の唱しに乘り易さ日▲五黑 の人自制して放縱に流れされば大なる過誤なし▲六白 の人勞苦を常と思むて勵む時は成果を見るべし▲七赤 の人自己の裁斷は總での失敗を招く基と知るべし▲八白 の人月も滿れば缺くる何事も八分に滿越すべし▲九紫 の人一時の乏しきを恐ぶ時は積德自ら巡り來る

讀者欄
青年に捧ぐ 松崎生

我々青年が明日の爲めに營々として勞役して居る手を休めて眼を内外にむけながめた時、我々青年の腦裡に稻妻の如く閃めくは現在我國の有樣であらう。現在日本はうづまき流れる急端な脚下に見てゐるのである。

我國の開國してから七十幾年かに成る。洪水の長堤を決する如くどつと流れ込んで來た凄じい西洋の文化と生活とが我國民の思想と生活を激動させたゞらう! [illegible]民族生活が複雜な工業文明に變いしまつた。それも共に工業文明時代に共通な社會思想と社會問題とが日本の隅々まで波及した。

フランス革命以來唯も進も止める事の出來なかつたデモクラシーの要望から〳〵日本の國の中にも普通選擧となつて現れた。然此深刻にして廣汎な變化の僅に明治維新以來六十年たらずして成就した事を思へば我々は今更の如く時代の多き力について驚かざるを得ない。

あたらしき日本はかかる一切の變化を抱いて今何處に往かんとするのであるか何う云ふ思想さ、何う云ふ生活と何う云ふ政治とが明日、日本をさぐわやうとするのか。明治の新政府が樹立した日本の世界政策は五十年を經て茲に徹定的に改革しなければならぬ秋になつて來た。日本はこれから何う云ふ世界政策を立てゝあたらしき全世界の大潮に船出して行かうと云ふのだ。

日本は今何處へ行く〳〵だ教育は進み生活は向上した然し人間自身の價値は高まりつゝある?。デモクラシーの政治は滔として全世界を呑つくさんとしてゐる。平等を求める聲や世界の隅々迄徹し其平等論を基調として新思想を新生活とが浸潤して來た。

現在日本は海の内も海の外も山雨將に至らんとして風櫻に滿ちて居る秋である、思想經濟外交の一切にわたつて我等は明かに明日の暴風雨を豫感する、かかる暴風雨を叱咤し、かかる怒濤に鄧して新日本のあたらしき生命を呼び起すものはたれが云ふまでもなく若き力の滿ち〳〵てゐる青年〳〵る我々の渾身には戰ひの血がうづ卷流れてゐるのである。

おお若人よ
戰へ戰へ
若き力を以て…

講談 幕末 [illegible]
(177) 渡邊默禪作 宮野歌春畫

「うん、そんな話でしたな江戸の方は大變でげすよ、官軍は最う鼻の先の高輪まで乘込んで來て、大將の西郷隆盛とかつてね人と勝安房守さまと懸合最中、火を放けて江戸中を燒拂ふとか燒かせまいとか、お城を渡すとか渡さないとかごた〳〵してゐるさうで、八百八町は生きた空もなく、ばた〳〵と家財を疊んで田舍へ逃げる騷ぎでげす、まア行つて御覧じろ、全然火の消えたやうな寂しさで、どいつの顏を見ても眞寛になつてゐるから……それで將軍さまは水戸へ引込む、旗本衆は青息吐息、どうなるかとふるへてゐやす、ア慘めな話さ」

梶原はぶせんとして長い呼吸を吐いた、前に出した握飯をその儘腕叉して茫と焚火を視詰めてゐたが、ふつと憶ひ出したやうに

「む、それから何はどうなりましたい、アノ新選組の近藤勇ッてね偉い人があつた筈だが、此方で軍に負けて江戸へ引返してから取捉まつたなんてえのもあるが」

と聞いた。大なる問題、差向き是に依つて自分が前途の方針を決定する譯である。

「近藤さまですか、イヤ彼のた方も可哀想にね」

「む〻」

「下總の流山で一旗擧げる目算であつたのがお前さんあんな偉ひ人でも武運が盡きたと見え、越ヶ谷で官軍の手に取捉まつて、今にもた仕置になるさうですよ」

「えゝッ、仕置に?む〻!」

梶原はがくせんとして叫んだ。見る〳〵みうちはふるひ立つて、きりゝと握る刀の柄、眼をいからしてはつたと戸外を睨む、その視線の眞向ふにゐた飛脚屋は顏を仰着げてぢり〳〵と横へ辷る途端、しようぎから腰を落してどたりつと頰がつた。

「おッ、た、た、大變だッ〳〵、ぐ、ぐ、桑原萬才樂」

× × ×

土藏といふ都合の好い牢獄に罪なくして見る月の影も缺さぬ壁圍ゐ、其の中に因はれたのみでも既に大なる苦痛であるのに、寢ひにきるべきふすまなく、ひもじくなりても飲むべき白湯さへ與へられぬ雪江は、斯くして痩殺しにさるべき運命をになへる体を冷たい板の間に投出しつ〻漆い似たる闇の中に悶いもがいて且つ泣いた。

嘗て本で見たことのある俊寛僧都の哀れな物語、これは遠い〳〵海のはての鬼界が島と覺いてゐたのに、意外にもその島が自分の家の庭にあつた、恐ろしい鬼が眼の前にすんでゐたのが解らなかつた、今し己れの身は俊寛になつたのである。同じ憂目ながらも俊寛の方が猶自分よりは勝であつた青い松も見れる、白い砂も眺められた、自由に運動も能きた、何時かはしやめんの舟が來るだらうといふ希望もあつた我にはその凡てか無い、一つも有たね、此處で死ぬのである死ぬのも尋常の死樣ではない、乾殺され悶え死をするのだ。

斯く思ふと雪江は頭に水を浴けられたやうにぞつと身ぶるひせざるを得なんだ妙に胸がおの〻いて頭腦に血が昻つて、ぐら〳〵と眼もくらむやうな感覺がするそれを怖へてゐるとほうざ氣が遠くなつて暗い地の底に曳入れられるやうな不快な心地になる、ふら〳〵と起揚つて手探りに壁を撫廻して戸口に寄つた。

廣告
平町南町 大和田醫院 電話一二九番

◇瓶詰販賣滿壹週年紀念◇
銘酒 由良の助
特撰賣出
壹升瓶詰 一本 壹圓四拾錢(空瓶交換レッテル付)
壹斗樽詰 一本 拾貳圓(樽ヌキ)
但從來の瓶詰價格並に空瓶交換の方法は從前通り
永山酒造商發賣元
平町四丁目驛通り(電話二〇七番)

七日ヨリ上映
大河内傳次郎 伏見直江 梅村蓉子
新版 大岡政談大會
△第一篇より最終篇まで開再三の上映を許さゞる巨篇公開 慘血を好む乾坤二刀を中心として捲き起る妖刀奇譚
飯田蝶子 島田嘉七 瀧田青江 共演
諷刺喜劇 姑花嫁奮戰記
女の古物を姑と稱し女房と命名された、新品を嫁と稱す新品と古物の折合中々にして六ケ敷事どもなり其の如合方法を世の人々に傳ね聞かさん
映寫六時十五分ヨリ致します(料金普通) 土曜日曜學生デー
平館

進級と入學に
學生カバンと學生ボーシ
その他女學生用手提鞄
商業學校指定特製手提げ鞄
平町四丁目 にツルヤ(百四十番)

高級車貸切
開店披露
自動車御用ハ
電話三四三番(サシミ)
平驛前 昭和タクシー
澤正路

俺が服見よ、自慢ぢやないがかわぬ者ない正札堂
アラ正札堂
物は試めしよ、來てよ見さんせい服かへに
アラ服かへに
薄利多賣はこの店の主義
不景氣なかせの福の神
アラ福の神
正札堂

ヒゲタ醬油
宮內省御用達
特約店 平町田町 廣瀬支店 電話五四番
銚子醬油株式會社

內臟外科 骨關節外科 整形外科 產科 婦人科
專門 藤本順
院長 木村寅次郎

平町新川町
外科 婦人科 木村醫院
電話一六四番

パテーベビー活動寫眞機
電燈より接續してすぐ寫る
家庭活動寫眞
映寫器 八〇、〇〇
撮影器 六五、〇〇
フヒルム 一本 二、〇〇
生フヒルム 一本 一、〇〇 二、五〇
市内はお伺ひして御覧に供します
御申越次第カタローク進呈
パテーベビー社代理店
平町二丁目 西村屋藥舖 電話三番

▼白菜種子▲
特選結球 芝罘白菜 一袋十錢 一合五十錢
支那原産…品種純良…結球容易
改良結球 福島白菜 一袋二十錢 一合一圓
芝罘白菜ノ改良…種採種嚴格…結球確實
園藝種苗委託販賣者一町村一名募集
福島縣農會御用
園藝種苗生産販賣 東白河農產學校教諭 川原田次郎
郡山市字池臺

營業科目
材木並ニ製材
建築請負
大谷石
貸家
平町 色川勝三郎商店
電話三四一番
▲多少にかゝはらす御用命の程願ひます

高等課長になる 猪狩署長の留任運動

今少し平に置きたいと 地方有志の輿論

今月末日頃に發表を見るべく豫想されてゐる本縣警察官の異動に際し猪狩平署長が高等課長に拔擢されるやの噂は稍々動かすべからざるものあり中村警察部長の肚裡は殆むど確定的のものとして信ずべきもあり然かもトントン調子に進む猪狩氏の身上には今や高等課長の桂冠がブラ下つてゐる

猪狩氏は素より氏の前途を祝す人々は今回の榮轉説の實現を訴ゝや勿論であるが氏が中村警察署長より平に來任以來猶ほ二年七ケ月の日猶ほ淺く其の間非凡の靈腕を揮ひ地方民の親類を厚ふしてゐるが猶ほ氏によつて行ふべき幾多の仕事が取り殘されてゐる許りでなく氏は恩給年限勤續まで後二ケ年の期間を有し然かも官吏生活者の將來の安定を確立し得ざる今日然かも政黨的に煩はしき高等課長を煩はす事は個人的に見て

甚だ氏の爲めに採らざる處であるから後二三年平署の現職に止まり專ら地方警察事務の爲め揮心の努力を拂ひて貰ねたいとの地方有志の熱心な輿論が沸騰し或る方面に向つて留任の運動をなすものも現はれて來たものの如く隨つて殆むと確立的に見られて猪狩氏の高等課長榮轉は或は取り止めの儘現任する事になるかも知れぬ樣に見られてゐる

南町の飲食店を 川向ひに移轉

風化取締りの上から 平署も大乘氣で

平町にはモダンなカフエーバー等を始め安價な亭樂場と言はれる飲食店即ち例の賣春窟がたどろくべき勢ひで増加してゐる。白いエプロン姿の女給の中には昏僅かのチップに媚を賣る者もあるので平警察署でもこの取締には可成り手をやいて來たが殊に南町通り一帶は闇に咲く賣春婦の群が殆んど軒並に姿を見せて、黄昏ところから同町附近を通行でもしやうものなら例の鼠泣き位はよいとしても袖を引いたり飛び付いたり其の痴態は目も當られないほどで盛んに風紀を亂すので平署當局も頗る手古摺つてゐるが第三、四小學校の新築敷地も同町近接地に決定した今日、從來の狀態では小學兒童の教養上憂慮すべきものであると言ふので平町識者間には南町を始め鍛治町、材木町更に散在してゐるこれ等飲食店を一郭に移轉集合せしめやうとするの聲も漸くたかまつて來たが平署は勿論平町役場及び營業者間にも移轉集合することには大體異論ない模樣であるから案外速かに具體化するではないかと見られ各方面からも期待されてゐる尙移轉場所は現在の新川を距てたる南町裏附近が適當であらうと言はれてる

鹿島大火へ義捐

同村役場受付の分

鹿島村大火に對し方面より同情翕然と集まり義捐金品を贈つて呉るもの多いが鹿島村役場受付の金品と氏名左の如し(圓以下略)

金貳拾圓 平町 野崎 滿藏
金拾圓 同 藤田 榮助
鏡餅四拾枚上矢田三田仙翁
金拾圓 泉村 江尻 博孝
金五拾圓外酒一斗
湯本 赤塚 兼助
白米五俵四斗入杉割木千把
同 矢吹 佐市
鍋外六品 平町 諸橋久太郎
白米拾俵四斗入
久保 鈴木 大藏
金參圓 四倉 伊藤 義貫
金五拾圓外酒一斗
小名濱 小野 晋平
金二拾圓 磐崎 消防組
金拾圓 三澤 吉田 正義
貳拾圓 本村 大字上矢田
打拭四十五本平町中野勇吉
金五圓小名濱町 小野仁一
飯櫃四十六個平町丸本商店
白米五俵四斗入
久保 鈴木龜之助
金貳拾圓夏井村 役場吏員
一同 村會議員消防組頭
金拾圓 好間村消防組頭
叶 多 清
金貳拾圓中四丁目小野常治
金拾圓 平町 志賀 盛榮
金貳拾圓 本村 大字 米田
金八拾圓松久須根新妻賢雄
玄米四俵四斗入御代
荒川 忠治
金五拾圓上矢田 鈴木一男
金貳百五拾圓
平町消防組外町有志
反物四十四反同 同 卜
提灯四十五個
平町四丁目新妻春次
金拾圓 平町 大和田豐吉
貳拾圓 上矢田
大字上矢田壯年會
金拾圓 玉川村 武田常松
白米拾俵四斗入小名濱町
小名濱町
醬油拾樽八升入同 同
手拭五拾本 同佐藤時計店
手拭四十四本
平町 三井呉服店
金拾圓二本松電氣株式會社
雜記貳百冊外五品
小名濱町 山野邊茂
金貳拾圓 横濱市 大平重良
圓拾五圓 鹿島村 大字舟戸
金貳拾圓 同 大字上矢田
金拾圓 同 鹿島神社
金拾圓 上矢田 鈴木聰次郎
金拾圓 同 佐原 三男
金五圓 同 江尻泰次郎
金五圓 同 江尻寅次郎
金貳拾圓鹿島村 大字久保
金拾圓 同鹿島村軍人分會
金貳拾圓 同大字松久須根
金拾五圓 同 大字 三澤
金三拾圓鹿島學校職員一同
反物四十八反
平町 谷屋呉服店
金拾五圓 飯野村 小學校職
員生徒一圓二三七
金拾圓鹿島村下矢田青年團
金壹百圓 玉川村 玉川村
金四圓五拾錢雜記外
湯本町 新家 芳美
白米拾俵 鹿島村 三島五郎
金五圓 同 志賀 政敏
金貳圓 同 國井 定男
金貳圓 同 志賀 又一
金貳圓 同 山野邊隆治
金貳拾圓 同 志賀 直哉
金貳圓 同 坂本惣四郎
金貳圓 同 富岡 梅吉
金貳圓 同 山野邊松雄
金貳圓 同 國井 正吉
金五圓 同 國井 梅吉
金五圓 同 國井 富吉
金壹圓 同 比佐 良輔
玄米壹俵四斗入同鈴木 滿
金五圓 同 鈴木 重和
金壹圓 同 同 トミ
金壹圓 同 箱崎 重吉
金五圓 同 橋本 寛
貳圓同 同 石井釣太郎
金拾圓 同 橋本 安英
金貳圓 鹿島村 山野邊 儀
金五圓 同 佐藤 巴
金拾圓 同 四家 市郎
金六圓 同 大字 飯田
金拾圓 同 鹿島村青年團
金五圓 同大字米田壯友團
金拾圓 同 高萩 三郎
園部 嘉雄
ゴム底足袋四十八足
平町一丁目小川伊惣治
金拾圓 神谷村
村長 佐藤久三郎
金拾圓 豐間村 鈴木藤次郎
金五圓 同 四家吉十郎
金拾圓神谷村神谷佐藤久吾
金壹百圓湯本町湯本消防組
金五圓 玉川村 箱崎瀧三郎
金四十圓 平町
平看護婦會清野キヨ
金拾圓 平町 稅務署員一同
金三拾貳圓
群馬縣日本絹槲株式會社
金五圓 鹿島村 荒川 仙三
金五圓 同 同 源重
金五圓 同 八代 利治
金四圓 同 佐原 義光
金四圓 同 荒川 一郎
金三圓 同 鈴木 睦武
金貳圓 同 八代 兼治
金貳圓 同 門馬 豐
金三圓 同 佐原林之助
金貳圓 同 八代 義次
金七圓 同 鈴木 重孝
金五圓 同 八代 義定
金壹圓 同 坂本 幸吉
金三圓 同 佐原 久治
金六百五圓江名濱町募集金
金拾圓 鹿島村 佐藤 米治
醬油四樽(八升入)
玉川村 小松泰三
襦袢三拾枚
小名濱町 久保田直
鏡餅二十枚 同 同 人
金五圓 小名濱町 文屋商店
金貳拾圓 同 蒂屋組合
佐藤 政治
金拾圓 平町 四家久米白
大字上藏持へ
金拾圓 湯本 坂本 直衛
金三圓 江名 秋川 重忠
醬油一斗六升好間叶多政式
同一斗六升玉川齋藤己代治
莫大小襯服引平諸橋呉服店
麻裏九十足江名 高島屋
コール天足袋六十足
同 同
金壹百圓 鹿島村 三島五郎
金拾圓 同 橋本 安英
白米四斗 江名 鈴木 多重
金五圓鹿島村下藏持青年團
金五圓 耶麻郡 富田 富次
金拾五圓 江名 永崎 亮晨
金五圓 平 菅野 屋
金五圓 鹿島 下矢田眞福寺

職業十誡を宣傳し 少年紹介に努力

濱三郡小學校と連絡し 大童の平紹介所

平職業紹介所に於ける二月中の成績狀態は求人八十二人求職四十一人紹介三十九人就職十九人と云ふ膨大な數字を示し大多忙であつたが求人、求職の多い割合に就職の抄かつたのは求人求職者中小學兒童が大部分を占めてゐる關係であるが同紹介所では特に少年紹介に主力を注ぎ求人申込者の氏名職業を詳記した印刷物を濱三郡各小學校に配布し大いに幹旋に努める事となつた因に同紹介所が編作宣傳中の職業紹介十誡は左の如し

一、職業に貴賤の隔てはないが勤との怠との鞘はある

二、適材を適所に置くのは御國の爲よ一つは身の爲家の爲

三、失業離職や病氣の時に力強きは貯金帳

四、影日向なくて働く眞面目の人にや神や佛の加護がある

五、かせぐに追ひ付く貧乏の神と「マラソン」競爭して見ない

六、樂は苦の種苦は樂の種憂世と云ふのも昔から

七、艱難辛苦の山坂越えりや薫る咲く村がある

八、住込婦ふな修業の爲よ夜學で出世の腕磨け

九、經濟の取樣を實地に稽古をするにや家政見習すればよい

十、經濟の取樣が上手になる樣になれば家も榮て國も富む

植田の怪火

直ちに消し止む

石城郡植田町大字植田臺町渡邊新一方裏戸軒下より去る四日午後六時二十分發火し空炭俵中に入れ置きし鉋屑を焼きつくし傍らの炭俵に延焼しまさに大事に至らんとする際未だ宵の中の事とて附近の人々發見消し止めたが火の氣なき場所とて原因不明目下調査中である

磐中の入學志望 今年は五百名

去年よりは二百名減 興味ある入試々驗

縣立磐城中學校本年度入學試驗考査は來る廿八日より三日間同校内に於いて執行するが關係各小學校の入學希望者を綜合すると本年度は例年より若干減少し定員二百五十名に對し約倍數の五百名位に止まる模樣で約二百名の志望者減であるが考査方法に就て唐士磐城中學校長は語る

大體昨年の考査方法を踏襲する方針で先づ小學校の成績書を照合しそれに簡單なる口問口答、口問筆答を加へるだけです、從來と異つた點は小學校に於ける準備教育が無くなつたと云ふだけですが此の結果が果してどうかは極めて興味ある問題です

納豆屋の罪

空家から盗む

石城郡内郷村大字金至納豆行商齋藤光男(三五)は昨年十二月頃同村御厩字久世原氏名不詳宅に於て家人の不在を奇貨とし屋敷に忍び入り簞笥の小抽出より現金一ゑん五十錢を窃取したこと平署柴崎刑事に探知され餘罪取調中

孫五人を抱えて 飢ねに泣く 老人夫婦

娘に死なし婿に出られ 番匠町の哀れな家

平町番匠町吉田久之丞(七三)と妻きさ(六九)の老夫婦は十三才を頭に四人の孫と七人で此の飢ねと寒さに泣いてゐる、久之丞は以前五丁目に荒物商を營みその當時は相當に暮してゐたのであつたが事業の失敗と知人の債務保證人になつて保證辨償の厄に遭ひ終に家をたゝんで番匠町に佗住居し色々な職業に從事したのであつたがどれもこれも失敗し養女ときに迎へた婿養子愼吾(四二)と家運の挽回に努めたのであつたが愼吾は性來怠け者で段々家は零落して行くばかりであつた、そこへ養女ときは乳癌に罹り三年間惱んで一昨年遂に死亡してしまつた愼吾は其後は快々として樂しまず無情にも五人の子供を病體の老夫婦に殘したまゝ家出してしまつた、然し良心の苛責に堪ね兼ねてか昨年の暮漂然として歸宅したもの

働くにも仕事がなく又復去月二月中旬無斷家出して行方が知れなくなつたそのどん底に陷つた一家七人は只老婆の一日に十錢乃至の暗憺たる窮乏をそして食に飢ね寒さに慄へてゐる老人の話を涙なしに聞くことは出來なかつた

新川の掃除

取擴げ工事も起工

平町、飯野、内郷の一町二ケ村より成る水害豫防組合では今年度事業として平町南町裏新川々下四十間ヶ副圓取り擴げ方を行ふ事となつたが平町では目下人夫を督して川上の汚物掃除を行つてゐる

過失運轉手

石城郡四倉驛構内に於て去る一日磐城セメント會社工業所で專用貨車の入換作業中誤つて同會社の人夫高野某を轢き殺した運轉手山城重太郎にかゝる過失傷害致死事件は平區裁判所に於て審理中の所五日罰金七十圓の判決言渡しがあつた

鹿島の罹災者へ

本社から二十圓

鹿島村の大火は本紙既報の如く同村々會は復興資金三萬圓の借入方を縣に願出てる外凡ゆる方法を以て災罹者の救護に努め、此の寒空に衣食住なく路頭に迷つてゐる二百數十名の罹災者に對する同情翕然と集まり或は金や物品を贈恵して來るもの日に日に多く同村役場吏員は之れが受付と配當處分に忙殺されてゐるが本社では金貳拾えんの義捐金を同村々長宛贈呈した

社告

本紙六日夕刊は發賣禁止となり一部分の外配達不能に終りました悪しからず御寛恕願上ます

磐城新聞社

石城の養蠶 掃立增

郡下で學校

石城郡養蠶同業組合では年春蠶掃立枚數の調査を開始したが昨年より增加の傾向にある、これは前年霜害その他から大打擊を受け更に繭價安のため各養蠶に今春蠶に於て挽回せんとしてゐるため掃立て增加の傾向となつたものである前年の掃立て實數は一萬六千七百六十六枚であつたが、今年は約二百枚位の增加を見る模樣であると

平町今年の 修學兒童

近く體格檢査

平町小學校本年四月入學する兒童數は合計六百四十九名中、男三百四十四名、女三百五名、本籍男百八十五名、女百五十六名、寄留男百五十九名、女百四十九名で前年の六百七十一名にくらべて二十二名の減少であるが尙ほ昨年は男三百四名女三百六十八名、本籍男百八十二名、女四十二名、寄留男百一十一名、女百八十二名であつたが今年は數に於て二十二名の減少であるが從來は女が多く男子が少かつたのであるが今年は其反對を示して居る、これが原因については判明しないので役場並に學校當局でも調査する筈であるが興味あるものとして見られてるが來る廿五日は體格檢査をなすと

傳患好績

僅か二名の患者

平町の昨年度は未曾有の傳患流行し從來の隔離病舍では收容し切れぬので假病舍を建て全員を擧げて豫防に努力し年内中に全治退院を見たが今年に入つてからは僅か二名の患者を出したので非常の好成績にあり平署管内に於ても比較的好成績であると

生徒募集廣告

第一學年 約二百五十名
第二學年 補欠若干名

右募集ス

但し願書〆切三月十日

昭和四年三月六日

磐城中學校

診察無料

如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい

院長博士敬白

大谷時計病院

電話一九番

ホシシクロの特賣

花柳病の豫防藥 バイドク、サウドク、リンドクに良く殺虫致します

注意 然し子供の欲する人は使用していけません

定價 五拾錢 壹圓 貳圓

平町三丁目

星製藥磐城配給所

磐城病院改稱

市原病院

平町田町(電話一一四番)

内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋毒 市原三三男

特賣!!

たひら正宗 福島縣清酒品評會一等賞受領

花春 同優等賞受領

醬油釀造元

鹽屋 山崎合名會社

電話一〇番

内科、小兒科 花柳病科 入院應需

藤沼醫院

平町紺屋町

電話平局五〇七番